

2024年2月9日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 米田 久美子

ブータン国水力発電開発事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2024年1月19日(金) 14:00～18:19
- ・場所：JICA 本部(2階227会議室)及びオンライン
- ・ワーキンググループ委員：田辺委員、二宮委員、林委員、松本委員、米田委員
- ・議題：ブータン国水力発電開発事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】ブータン国水力発電開発事業(協力準備調査(有償)) SC案
 - 2) 現ESIA報告書 Volume V
 - 3) 現ESIA報告書(ダイジェスト版) Volume I-Chapter 14
 - 4) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2022年1月)

全体会合(第154回委員会)

- ・日時：2024年2月9日(金) 14:00～16:25
- ・場所：JICA 本部(2階229会議室)及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 他の発電オプションとの経済コスト比較においては、可能な限り直近のデータを DFR に記述すること。
2. 電力マスタープランから 5 事業に候補を絞った経緯、その 5 事業の概要と比較結果、マスタープランで 69 事業のうち 57 位（環境の重みを 60%にした場合は 59 位）であった本事業を選んだ理由、サムドゥプジョンカル県に絞った狙いを踏まえた本事業の乾季の電力不足への貢献度を DFR に記述すること。

代替案検討

3. ルート A 案の内の生物的回廊以外の自然環境が、手付かずの原生林であるにも関わらず、「保護のために特に指定した地域」の対象にならないと判断された理由を確認し、ルート A 案がルート C 案の代替案にならない（ルート C 案が推奨される）根拠を明確にして、DFR に記述すること。
4. ジョモツァンカー野生生物保護区内のゾーン指定の根拠、およびバッファーゾーン、マルチプルユースゾーンそれぞれの利用の考え方について確認し DFR に記述すること。
5. ジョモツァンカー野生生物保護区のマルチプルユースゾーン内での事業実施の可否が論点になっていることに鑑み、当該ゾーン内での事業（主として、送電線鉄塔や仮設道路建設）に伴う森林への影響を詳細に把握するとともに、それらのデータを代替案評価に対して適切に反映した後、それらの結果を DFR に記述すること。

環境配慮

6. 本調査における雨季と乾季が指す月を明確にし、それぞれの季の調査期間が現地の特長や調査目的を踏まえて十分であることを DFR に記述すること。
7. ジョモリダム下流域が回遊魚の産卵場所になっていることから、産卵に影響を及ぼさない環境維持流量が確保されるよう実施機関に働きかけ、DFR に環境維持流量の妥当性について記述すること。

社会配慮

8. ドウルクビンドゥ発電所周辺のネパール系住民の市民権の有無等について調査を行い、その方々が影響を受ける場合は慎重な緩和策を検討し DFR に記述すること。

以上